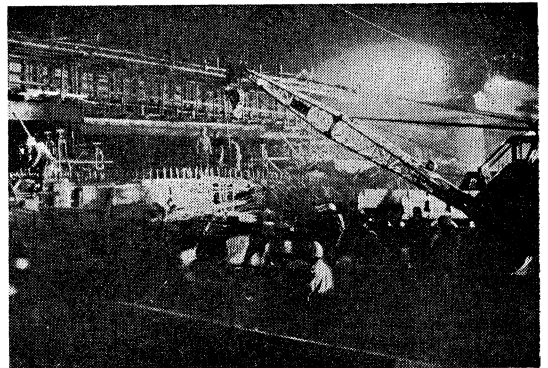
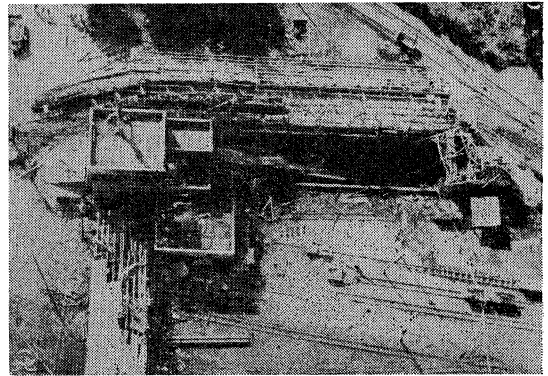


●**国鉄横須賀線で二重衝突事故発生** 11月9日夕刻横須賀線（鶴見駅際）で二重衝突事故が発生、おりから土曜日のためほぼ満員となっていた下り横須賀線の乗客を中心として160名（11月12日現在）の死者をだす大惨事をひきおこした。国鉄では三河島事故以来相応の努力をしていたようだが再びこの惨事をみたことに対して一般の見方はきびしい。この事故を鉄道土木の面からみると直接的には事故原因にはつながっていないようだが再びこの惨劇をくりかえさぬために、徹底的に調査し結果を発表することが国民のための国鉄としての義務であろう。

●**三井三池鉱山で戦後最大の事故発生** 10月9日、大牟田市三井三池鉱業所三川鉱で発生した大爆発事故は大正3年福岡県の方城鉱で発生したガス爆発（死者687名）に次ぐ日本炭鉱史上二番目の大事故となった。大牟田署に設けられた警備本部が11月10日9時すぎ行なった発表によると死者452名、負傷者470名であり悲さんの一語につきる。原因は炭じんの爆発といわれるが原因こそちがえわれわれの分野においてもここに似た作業環境は非常に多いので今後とも保安その他に落度のないよう留意したいものである。もって他山の石としたい。

●**建設関係褒賞受賞者決まる** 2日付の建設省の発表によれば本年度の標記褒章受賞者は黄綬褒章関係で奥村組社長奥村太四郎氏以下60名、藍綬褒章で東京都市計画地方審議会委員笠原敏郎氏以下9名の71名である。黄綬褒章は業務に精励である者に与えられるものであり、藍綬褒章は公益にみるべきものがあつた場合に与えられるものである。われわれの分野からこのような多く

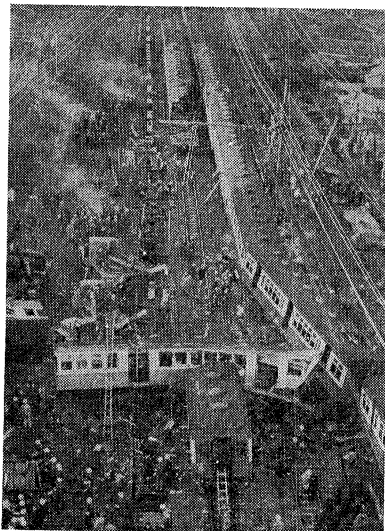


の受賞者を出したということは誇りとすべきことであるとともに今後続くわれわれの励みとなるものである。

●**首都高速4号線工事で陸橋落ちる** 11月12日夕刻、首都高速道路公団高速道路4号線の工事現場、東京都渋谷区千駄ヶ谷1ノ33地籍先きでコンクリート打込み作業中の長さ35m、幅8m、重さ270tの陸橋が落下2名の死傷者などを出した。この陸橋は通称オリンピック道路の一部でありその完成が急がれていたものである。原因について今後の調査に待たねばならないが工期が決められての工事にあってはよりいっそうの安全性が強調されるべきであろう。

●**工業分散実態調査の結果判明** 10月29日付の日刊工業新聞によれば日本商工会議所は地域開発と工業の適正配置をはかるため立地の状況を企業の実体に即しては握することを目的として工業分散の実態調査を行なっている。これによれば立地条件の改善のため多くの事業所が改善を要望していることは道路、鉄道、通信などの公共施設、労働力および金融税制上の措置などである。

実業界が調査の上で立地条件の改善を要望してきたことはとりもなおさず産業分野がわれわれの仕事に注目していることを意味することである。よりいっそうの努力をしたいものである。



【写真説明】

左下：横須賀線二重衝突事故現場（共同フォト・サービス提供）

右上：爆発を起した鉱口付近（共同フォト・サービス提供）

右下：こわれた高速道路千駄ヶ谷駅現場（11月12日19時、編集部写す）